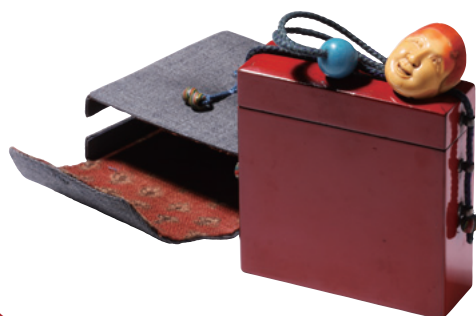


江戸の赤

伊勢半本店 紅ミュージアム 企画展



09年 10月3日「土」 - 11月29日「日」

【前期】10月3日(土)～11月3日(火)／【後期】11月6日(金)～11月29日(日)
休館日：毎週月曜日(11月2日を除く)と展示替え期間(11月4日・5日) ※ただし、月曜日が祝日または振替休日の場合は翌日休館。
開館時間：午前11時～午後7時(最終日は午後5時まで) ※いずれも入館は閉館30分前まで。
企画展観覧料：500円／協力：其角堂コレクション

伊勢半本店 紅ミュージアム

東京都港区南青山6-6-20 K's南青山ビル1F
TEL 03-5467-1350 <http://www.isehan.co.jp>



江戸の赤

数ある色彩の中で、「赤」という色は、古くから意識的に使われてきた色です。ベンガラ・朱・丹（鉱物系）、茜・紅花・蘇芳（植物系）などを素材に用い、その濃淡によって朱色・緋色・紅色・臙脂色などの多様な赤色を生み出しました。

かつて赤は、太陽や火焰、血を連想させる色であり、呪術的・祭祀的の意味をもって使われた色でした。一方で、「万葉集」や「古今和歌集」などの歌謡の世界を見れば、慕情や恋情といった強い情感を投影する色として多量に出ます。また、平安文学には、時におどろおどろしく、物々しい印象を与える強烈な赤色が描かれており、これは翻せば、赤が人の目を惹き付け、心象に作用する色であったことを示しています。

戦国時代の軍団編成のひとつ「赤備」も、赤色による心象性を意識した好例と言えるでしょう。甲冑・馬具・

旗指物など自軍のあらゆる武具を朱塗りに統一した赤備は、視覚的に敵を恐れさせ、かつ武勇の象徴として機能する重要な装置でした。

このように、赤は色の強さがそのまま他者に作用する、主張性の激しい色彩でした。すなわち、自己主張の色として、この上なく適していたのです。

江戸時代、富裕層や粋筋の人々は、己を飾るアイテムの随所に赤色を取り入れました。しかもそれは、舶来の贅沢な素材と精緻な細工・大胆な意匠をもって表現され、当時の美意識の競合と呼ぶに相応しい様相を呈したのです。

本展では、身を飾った装いの

「赤」、粋・伊達な「赤」、祈り・呪いに見る「赤」、描かれた「赤」など、江戸の多彩な赤をご紹介します。この機会には是非ご堪能ください。



丸仕立陣羽織



牛頭天王御祭禮巡行の図(仮題・部分)・勝川春英



幸雄古言記

<必見!>

勝川春英画・「牛頭天王御祭禮巡行の図」(仮題・文化4年・3枚続)を、11月6日(金)~15日(日)の10日間限定で公開します。天王祭禮を描いた錦絵の中では最も古い部類に属する、大変貴重な資料です。

<展示替え>

前期/10月3日(土)~11月3日(火)
後期/11月6日(金)~11月29日(日)

<企画展観覧料>
500円

【交通機関】

- 地下鉄
東京メトロ銀座線・半蔵門線・千代田線
「表参道」駅下車 B1出口より徒歩12分
- バス
①渋谷駅東口バスターミナル51番乗り場
都01系統 新橋駅前行き「南青山七丁目」下車 徒歩1分
都01系統 六本木ヒルズ折返し「南青山七丁目」下車 徒歩1分
都01系統 東京ミッドタウン前(循環)「南青山七丁目」下車 徒歩1分
②渋谷駅東口バスターミナル59番乗り場
波88系統 新橋駅前行き「南青山七丁目」下車 徒歩30秒

伊勢半本店 紅ミュージアム

東京都港区南青山6-6-20K's南青山ビル1F
TEL. 03-5467-3735
http://www.isehan.co.jp



秋葉大権現御守・
痘瘡除け御守・
地藏菩薩印仏 等

◆本チラシをご持参の方は、チラシ1枚につき1名様まで、通常観覧料から100円割引いたします(500円→400円)。

【割引券】
江戸の赤